

環境会計

環境会計によって活動を定量的に把握することで
効率的かつ効果的な環境保全を進めています

環境保全コスト

2007年度は、工場内に社を創造する「YOKOHAMA千年の
社」プロジェクトを開始しました。その結果、管理活動コスト
の投資は4,600万円、費用は6億6,700万円になりました。

単位:百万円

環境保全コスト	主な取り組み内容	2006年度		2007年度	
		投資	費用	投資	費用
事業エリア		598	1,604	241	1,624
公害防止コスト	脱臭装置、防塵装置、環境対策費用など	198	350	84	349
地球環境保全コスト	コージェネレーション設備投資、省エネルギー活動費など	388	105	103	94
資源循環コスト	廃棄物分別と処理に係わる費用	11	1,149	54	1,181
上下流コスト	環境物品などの提供、環境負荷低減のための追加コスト	3	309	3	76
管理活動コスト	EMS維持・運用、情報開示費用	0	459	46	667
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究・開発コスト	190	617	6	1,636
社会活動コスト	環境面における環境貢献活動	0	14	0	16
小計		791	3,002	296	4,019
合計		3,793		4,315	

対象:横浜ゴム国内生産事業所、対象期間:2007年4月~2008年3月。

環境省の「環境会計ガイドライン(2005年版)」、日本ゴム工業の「環境会計」ガイドライン(2003年版)に準拠しました。研究開発コストは、環境負荷軽減に向けた開発及び環境貢献商品開発費用、人件費は環境保全活動に取り組んだ工数を算出して計上しました。環境損傷コストは0です。減価償却費用は計上していません。

経済効果と環境保全効果

環境保全効果は、省エネルギー活動による費用削減やリサイクル、廃棄物の売却益により11億5,900万円の効果をあ

げました。また、CO₂排出量は基準年比10.8%減を達成しました。

経済効果

単位:百万円

効果の分類	主な取り組み内容	2006年度	2007年度
収益	事業活動で生じた廃棄物リサイクルなどで得られた収益	143	189
費用削減	省エネルギーによる費用削減 リサイクル品使用による費用削減	1,254 541	1,398 540
合計		1,938	2,127

環境保全効果

分類	対前年比削減量	参照ページ
温室効果ガス排出量(千トン-CO ₂)	1	P30
VOCs排出量(トン)	100	P34
廃棄物埋立量(トン)	完全ゼロエミッション継続	P32
廃棄物発生量(トン)	3,247	P32

グループ会社の環境会計

単位:百万円

分類	2006年度		2007年度	
	投資	費用	投資	費用
事業エリア内コスト	17	59	3.7	57
管理・社会活動コスト	0	6	0	5.9
小計	17	64	3.7	63
合計		82		67

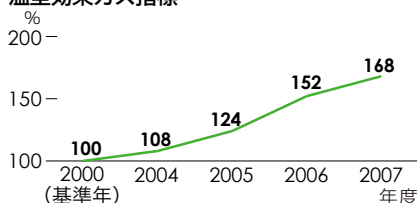
*対象範囲:ヨコハマタイヤ東日本リトレッド、山陽リトレッド、協機工業

環境効率

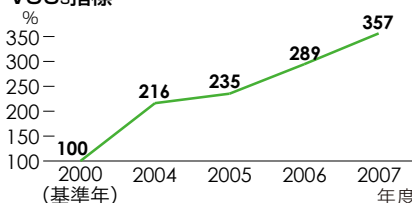
環境効率は、環境負荷を抑えていかに効率的に事業活動を行っているかをみる指標です。環境負荷を分母、売上高を分子にした指標で指数が大きいほど改善が進んでいることを

示します。横浜ゴムは3つの重要課題を環境効率指標としています。2007年度は温室効果ガス指標が昨年に引き続き大幅に向上しました。

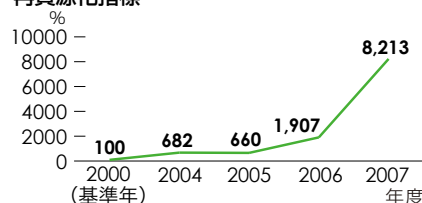
温室効果ガス指標*1



VOCs指標*2



再資源化指標*3



*1「売上高/温室効果ガス排出量」:基準年(2000年度)を100とした指数。*2「売上高/VOCs排出量」:基準年(2000年度)を100とした指数。

*3「売上高/最終処分量」:基準年(2000年度)を100とした指数(最終処分量の定義はP32を参照ください)。